

郡内の織物文化を、学び、伝える学生団体

WEAVE!

市長への提言

地方都市の問題は？

現在地方都市の問題として、シャッター通り、地場産業の衰退、後継者不足などがあります。しかし、地域に根ざした匠の技や産業観光が、地域資源や再活性化の柱となりつつあり、近年再び注目を集めています。これは都留市でも同様のことが言えるはずです。

歴史的・文化的なものは目前だけを考えれば、地域にとってそれほど大きな効果をもたらすものではありません。しかしそれらをないがしろにし便利さばかりを追い求めた市町村は、まちの強みや個性を失い情緒的な部分に訴える魅力が欠けるまちとなってしまいます。長い目で見たさいに歴史的・文化的なまちづくりは都留市にとっても欠かせないものと考えます。

1 発信方法を再度見直してみる

イベントを通して同じ織物でも、展示方法やキャッチコピー、置き場のデザインを変えることで、若年層の方から好印象な感想をもらうことができました。こういったことから、発信方法、表現方法次第で、より魅力的に伝わるのだと改めて実感しました。例えば市内で織物が購入できる「道の駅つる」での販売方法の見直しなど、検討できる点があるのではないのでしょうか。

またこういった織物をはじめとする都留の産業に関わるお土産品、贈答品など購入できる店が少ないのも問題だと感じています。多くの人が郡内織物というと、富士山駅構内のお土産品店で購入しているので、お試し移住で訪ねる人や富士山観光で立ち寄った人がまちなかでも織物に触れる機会が創出できればと考えています。

また今はあまりお金を落とすことはできない学生も、「大学時代を過ごした思い出の場所」として都留が位置づけられるとき、お土産品の1つに織物製品が当たり前になればという思いがあります。

*具体的な改善例

道の駅での販促ツールを充実させる / 道の駅イベントで「織物」をテーマに展示や移動販売などを行う / 商品棚のレイアウト、デザインを変更する / 大学の卒業記念品（成人式）にネクタイ、ストールを贈呈する / ミュージアム都留のミュージアムショップを充実させるなど公共施設での展示・販売 / エコハウスに展示 / ホームページで製作者の紹介をする / 移住先の働き口の一つとして織物工場を紹介する

2 プロデュースを誰と行うのか

発信方法を見直すにしても、それを誰がプロデュースしてゆくかが重要になるはずです。しかし活動を通して、大学生や地域の中にも織物に強く関心を持つ人が一定数いるということがわかり、こういった人々こそ今後発信方法を考える担い手としての重要な人材となるのではないかと考えます。行政の中で発信方法を見直して行くのではなく、関心のある人々を交え協働で行うことで、より効果の高い発信方法を考えることができるはずです。

3 地域のブランド力向上のため制度を充実

このような発信方法の改善を行っていくことは結果として、地域をブランディングすることにつながります。現在、都留市では企業が発信していくために必要な補助金や制度に不足を感じます。都留で現在も稼働する織物業者さんは大変意欲的な方が多いので、そういった制度や機会があれば、より伸びていけるのではないかと考えます。

4 学生と市民が共通の目的を持って活動

「学生と市民の交流」の機会は、市民にとっては何かをする起爆剤となったり、学生にとっても学びの多い経験となったりと相互にいい影響をもたらす力があります。しかしそういった活動の多くが、学生はボランティアどまりで市民と協働して活動を行ったという実感あまりないといった現状があるように思います。今回の活動を通し、学生も市民も共通の目的を持って活動することで、同じ立場でものを考え活動していくことができるようになりました。活動に関わった学生の卒業にあたって、「もう少し早くからやってみたかった」などと卒業を惜しむ声が上がりました。主体的な活動となることで、ひいては都留に残るという選択も生まれるかもしれません。共通の目標を持たせ活動することで、より効果的な交流の機会を創出することができるのではないかと考えます。